

神に選ばれたことば (2) ——アラブの IBM——

武内 道子

IBM? ああ、あのアメリカの会社ね、アラビアにも IBM 支社があるの? いいえ。アラビア人とつき合うには、IBM を知らないと言っていけないという話である。

まず、I は「インシャアツラー」ということで、「アツラーの神のみ心のままに」という意味である。

「ミチコ、明日のパーティ来られるの?」

「インシャアツラー」

アメリカ人とのやりとりで、アラビア語の受け応えが思わず口をついて出たのは、5月にダハランに入り、酷暑に耐えようやく昼間の気温が体温以下になったころのこと。文字通りには、アツラーの神が自分が行けるようにしてくれたら行くよ、という意味であるが、時には行く気はないが、はっきり断るのは悪いから、行けたら行くよ、という程度の意味で使われる。ハウスボーイに「それが終わったら窓ガラスをふいてね」と言うと、彼氏、「インシャアツラー、マダム」。この場合はイエスと同じである。また、

「もうすぐ雨がくるだろうね、インシャアツラー」

「インシャアツラー」

応える方の「インシャアツラー」は、そうしてくれるように! という心からの願望を表明している。11月も下旬になると、湿った風が吹きはじめ、日に日に雲の厚くなるのが認められ、シャワーのやってくるのを一日千秋の思いで待つということである。

二つめの B は「ブクラ」で、文字通りには「明日」という意味だが、今日の次の日を必ずしも指さない。この次いつか、という意味である。ただ、今出来ていないことはいつできるのか、と言うと、必ず「ブクラ」、当てにならないという含みもある。

最後の M は「マレシ」で、直訳すると「理にかなわない」ということで、気にするな、どうしようもない、仕方がないという感じである。

約束をしていても、心とからだの調子が変わり、ものごとの優先順位も変わってくる。私の命が尽きてしまわないと誰が断言できよう。人間だから忘れることもある。アツラーの神の言葉は不変だが、人間は変るものであるという認識、これこそアラブの価値観である。

この三つは、まさにアラブの哲学と知恵が日常生活の中で見事に結晶した表現と言えよう。そして、日本人とアラブ人との違い——それも根源的の違いを思い知らせてくれるものと、私には思える。日本人は、自分を取りまくもろもろに口では文句を並べ不満を言うが、究極的には他人を信じ、努力を善と信じるオプティミストである。アラブ人は、それと正反対の極にいると思う。——最後まで他人を信じず、愛も善意も信じない運命論者である（しかし、もちろんそのことが精神の不毛につながることは断じてない）。IBM は、苛酷な自然の中で生れ、同時に彼らの保身の術として生きているのである。

「先生、原稿は半ごろまでにいただけますか」

「努力いたします、インシャアツラー」

「今日は二十日ですが、原稿はまだですか」

「もうちょっと。ブクラ」

「原稿を」

「ブクラ」

「まだでしょうか?」

「教授会・部会・委員会とたて続けてダメだわ、マレシ」

かくして一回遅れの掲載と相なった次第。